

2020+1 東京オリンピックボランティアに参加して（続編）

馬場 久子

前回、書かせていただいたにもかかわらず、先生からのオファーをいただき、懲りずに続編を書くことになってしまいました。

お伝え出来なかったことを、もう少し詳しくお話させていただきます。

実質活動日は、4日のみでした。予備日が入ったりしたので5～6日滞在したのですが。

ですから活動日までが本当に長かったです。オンラインでの研修を数えてみると、任意のものも含め40ぐらい受けていました。全会場の共通研修として、熱中症対策、コロナ感染症対策、障害ごとのサポート、英語セミナー等々。各担当別役割の研修はさらに多いものがありました。私たちのEVS（イベントサービス）のミッションは、“全ての観客に笑顔と一生の思い出となる体験を提供する”でした。

研修の中で、マスクをしても伝わる笑顔の練習もあり、興味深かったです。

ホテルの予約は一年前からしておりましたが、会場の近くは取ることもできず、値段も高いこともあり離れたところを予約していました。ところがコロナ感染が収まらない状況から、無観客となるや一気に値段が下がり、結局会場近くのホテルを予約することができました。活動前には会場別研修というものがあり、自宅から会場までユニフォームを着てくることになりましたが、ボランティアの間では不安が募っていました。

なぜなら、開催反対の世論の中、ユニフォームを着て電車に乗ることで、石を投げられやしないかと……。当時は冗談のようで冗談ではなかったのです。

ボランティア仲間のTwitterでは、決まった時は堂々と晴れやかな気持ちで”がんばろう”と思っていたのに、今はこんなに後ろめたい気持ちになるなんて。という呟きもありました。

また活動までの話が長くなってしまいました。

一日の流れは、最寄りの「有明テニスの森」駅から二つ目の「東京ビッグサイト」駅で降りそこからシャトルバス10分ほどで会場に到着。広い会場の中を歩き、まず手、靴の裏も消毒、顔認証をして本人確認、セキュリティ検査を通り各部署のチェックイン、水、消毒剤などを受け取りやっと集合場所へ。

初日、ダイニングでの活動をしている時、外国の方にベジタリアンのお弁当を要求され、この会場では用意されていなかった為、ありませんとしか言えず、もっと丁寧にほかの言い方があったのではと反省。（他の会場では用意されていたようです。）

組織委員会会長、橋本聖子さんが来られ、私たちボランティアに対して労いの言葉をかけて下さり、小学生が育てた朝顔の鉢にお礼のコメントを一枚一枚書いておられました。限りあ

る時間だったと思いますが、とても気さくなお人柄だと感じました。

初日、活動を終え外食を控えるため、夕食を部屋でとるために何か買って帰ろうと思ったのですが、聞いていた AEON のスーパーが見つからず、ホテルが有明体操会場のすぐ隣だったこともあり道路沿いには何人もの警察官がおられたので尋ねてみると、他県から来ているのでわからないとの返事。見ると高知県警の方でした。ご苦労様です。

二日目のセレモニー準備室でご一緒した自衛官の方々は陸、海、空軍の中から選ばれた方が全国から集まって来られているようで初めてお会いする方ばかりですと言われていました。ダイニングでお見かけし、立っている時の姿勢の良さもさることながら食事をされている時も真っ直ぐすぎて、背中に板でも入っているのかなと思うぐらい姿勢が変わらず、さすがだなあと感心してしまいました。

総合馬術ではおよそ 60 頭の馬が走りました。

スタートするたびにラインでお知らせが入り、私たちは人、車が通らないようにロープを張り見守るという役割でした。

50 頭ほど走り終えた後、競技がしばらく中断された時間があり、落馬との知らせは受けていました。

その馬は、最後の障害を跳んだ後、足に回復不可能な損傷を受け、人道的な理由からオーナーと選手の同意のもと安楽死されたことを聞き、つい先ほど私の目の前を元気に走っていたお馬さんが・・・。

とても悲しい出来事でした。

活動の間、海の森水上競技場で競技を観戦させていただく機会がありました。

広々とした観客席に座り、もしふつうに観客が入っていたら、たくさんの歓声がこの会場に湧き上がっていたのだらうなあという思いがしました。

オリンピックが始まる前、ユニフォームを着て電車に乗ることにためらいを持っていた自分が、活動が始まると人の目を気にする余裕などなく、今日も一日がんばろうという思いでした。それは他の仲間も同じでした。

短い数日の間ではありましたが、様々なバックグラウンドを持つ方々と出会えて刺激的でした。

フルマラソンに挑戦されている女性、大学生の方は親子でボランティアに参加。お母さまは別の会場で活動されているとのこと。同じ体験ができるなんてすばらしい！

また、私よりはるかに年上であろうと思われる方と活動を共にし、本当に元気をいただきました。感染対策についても、意識が高い方ばかりで安心して活動を行うことができました。

組織委員会の方々をはじめ会場で活動している皆さんが大会成功のために真摯に向き合っている姿に感銘を受けました。

大変複雑な環境の中での開催でしたが、次回のオリンピックの時世界はどうなっているでしょうか。少しでも良い状況になっていることを願います。

いろんな立場に立つと、いろんな景色が見える。いつもと違う景色を見ると、いつもと違う感動がある。これは誰かが言っていた言葉ですが、今、よくわかります。

再度、とりとめのない内容で恐縮です。

まだパラリンピック開催中ですが、競技をテレビで観戦しつつ、ついついボランティアの方々の動きに注目してしまいます。

2021年8月29日